

会報 第69号	Mt. Iwaki Conservation Association  	2016年4月27日発行 岩木山を考える会 会長代行 小堀英憲
------------	---	---------------------------------------

## 2016年度総会報告

今年度の総会が4月3日(日)弘前市参画センターにおいて20名の参加で行われました。2015年度のまとめと決算、2016年度の活動方針と予算が討議、採択されました。弥生跡地の動物調査ではキチンとした調査を進めるために計画、打ち合わせの必要がある、と。山頂トイレでハエが発生している件での意見交換がありました。「獣害」についても提言がありました。

今回は総会后、近くのカフェで交流会を持ち15名の方が参加。「会報」の各記事は執筆者が個人の責任で書いている。それに対して相互に意見を出し合えばいいのでは、と。年に一度の総会に青森、大館からも参加して下さり、会の活動を前進させる意見が交わされ実りあるものとなりました。

藤原裕貴子 記

## 岩木山講座① 春の観察会 in 梵珠（又白山）

ここ津軽にもようやく春が巡ってきました。梵珠少年自然の家のある、梵珠山系又白山(192m)は、自然環境豊かな里山です。ミズナラ、アカマツ、カシワなどが林をつくり、シュンラン、カタクリ、キクザキイチリンソウ、スマレ類など春の山野草が明るい林床で咲いています。春を探しながら五感をフルに使って、春を見つけて見ませんか。

- 日 時 5月8日(日) 9時30分～13時  
(12時頃まで観察会をして、各自持参の昼食を一緒に食べたいと思います。)
- 集合場所 「梵珠少年自然の家」 9時30分  
(五所川原地区・国道101号線の俵元から県道・五所川原・金木線へ入る。  
小さな標識「少年自然の家」があります。「津軽フラワーセンター」と「少年自然の家」の標識をたどりながら進む。「大釈迦」からのコースではありません。)
- 募集人員 先着25名
- 持ち物 雨具、防寒具、長靴、飲み物、昼食
- 参加費 200円(保険料、資料代)
- 申し込み先 竹谷清光(TEL0172-36-6686 午後5～9時)
- 申し込み締切 5月7日(土)

## 岩木山講座② 弥生スキー場跡地観察会

弥生スキー場跡地は、自然の様々なレベルでの回復が同時に観察出来る場所です。いったん破壊された自然がどのように回復していくのか、参加者一人ひとりの目で確かめ合います。

この4年間の調査で確認された植物は300種以上にのぼります。ハンノキやニセアカシヤが勢いよく生

長しており、絶滅危惧種のハッチョウトンボがいた湿地帯は乾燥化しています。今後、どのような生態系へと変化していくのか興味津々です。去年は参加した子供たちがニホンザリガニを捕まえて歓声を上げていました。

この広大な弥生跡地の自然を守りながら、市民がどのようにそれを活かし利用していくか、みんなで考えましょう。(この観察会は、弘前市が数年前から「弥生いこいの広場隣接地利活用に係る自然観察会」として実施しており、当会も協力しています。)

日 時 : 6月18日(土) 10時～13時

集 合 場 所 : 弥生いこいの広場駐車場

参 加 費 : 200円(保険料)

持 ち 物 : 長靴(湿地を歩きます)、手袋、水、雨具、おにぎり(コープあおもりで豚汁を用意します。)

申し込み先 : 竹浪純(TEL 070-6952-2614)

申込締切日 : 5月31日(火)

## 岩木山講座③「ゴマシジミの観察会」

日 時 : 8月27日(土) 午前10時集合(雨天決行、雨天時は傘を持参)

・観察の視点

1、ゴマシジミ発生の状況、個体数、どこに多いか

2、ナガホノシロワレモコウへの産卵と卵の観察

3、ナガホノシロワレモコウの群落の様子

参加希望者は8月20日まで申し込み

申込先 : 阿部東(TEL 0172-36-4205)まで

## 第22回写真展「私の岩木山」無事終了

2月5日(金)～7日(日)開催された写真展「私の岩木山」は無事に終了しました。会員20名による、故郷の山「岩木山」に因む作品が69点出展され、



多くの方々にお越しいただき、概ね天候にも恵まれて、来場者数は248名を数えました。

今回の特徴は岩木山の景観を撮った作品が多く全体の74%を占め、それだけ岩木山に愛着を抱く会員の思い出が感じられる写真展でした。また特設コーナーでは昨年開催された岩木山講座の活動記録を展示し、来場の皆さんにご覧いただきました。写真展の準備・開催に関わった会員の皆様お疲れ様でした。

花田一雄 記

## 平成27年度岩木山講座⑤報告

岩木山の雪山観察会～平沢右岸

平成28年3月13日 参加者11名

岩木山山麓は湧水の多い平沢の右岸を標高 450m付近まで圧雪状の雪原を歩きました。植物はネコヤナギの綿芽、クルミの落葉痕跡(サル顔・ヒツジ顔)、昆虫のクスサンは蛾の幼虫。網状のハンモックを作り木の枝に絡まり春を待つ。

阿部東先生の説明を聞き冬の林の楽しみを知りました。

見えない所が多かったが、流れくる土砂で埋もれております。

竹谷清光 記

## 寄稿

小笠原諸島・父島へ

3月中旬に東京から南に約1000kmの太平洋上の小笠原諸島・父島に行き、亜熱帯の自然と、そこでの取り組みを体験できたので報告します。小笠原諸島は30あまりの島々からなる海洋島(これまで大陸とつながったことがない)です。ここに自生する動植物には島で独自の進化・適応を遂げた固有のものが多いのが特徴です。しかし最近では人が持ち込んだ動植物が帰化して本来の生態系を脅かすことが問題になっています。

人が住んでいるのは父島と母島のみで人口は両島合わせて2500人ほどです。本土と小笠原を結ぶ定期航路は6日に1便の「おがさわら丸」のみで、ほとんどの物資がそれで行き来します。片道25時間30分の船旅です。2011年、世界自然遺産に登録されました。

クジラを「食べる」資源から「観る」資源として、自主ルールのもと180度方向転換し活用。

捕鯨の歴史は昭和62年(1987年)で幕を閉じ、昭和63年(1988年)最初のホエールウォッチングが母島近海で行われました。ザトウクジラが小笠原諸島の沿岸に毎年12月から5月にかけて繁殖、子育てのためにやってきます。ブロウ(噴気、潮吹き)は陸上からも見るができます。私たちは3頭の父、母、子のクジラの息吹を間近に肌で感じることができました。また私たちの乗るボートの波とクジラにハシナギイルカの群れが近寄り左右に並走する体験もしました。

森歩きでは、小港海岸から中山峠に向かう際、入り口で、入山人数を小石を用いて手動でチェック。外来種プラナリア(ニューギニアヤリガタウズムシという肉食性で、固有のカタツムリを食べてしまう数センチ位のもの)対策として①泥落としマット②食酢スプレー③粘着ローラーを使用。

東平(ひがしだいら)アカガシラカラスバト(最も絶滅が心配されている種。飛ぶのが苦手)のサンクチュアリ(特別保護地域)へ。ノヤギ(野生化したヤギで多くの希少植物を採食し甚大な影響を与えている)、ノネコ(野生化したネコでアカガシラカラスバトや海鳥を捕食する)の侵入を防ぐため柵を設置しています。原則立






ち入り禁止ですがガイド同行で林内の歩道を歩けます。外来動物対策が色々取られています、それぞれ小笠原で起こっていること、それに対する取り組み、効果の到達点など分かりやすく紹介されていました。

3日間若いガイド同行で海や山、自然を巡り南の地の独特なものを体験できました。そのガイドの方たちも小笠原の自然に魅せられて移住しているようです。カヌーやダイビング、スイミング。島の歴史も興味深いものがあります。また、日本ではアオウミガメの最大級の繁殖地であるなどたくさんの魅力があります。未知の自然もとてもいいですが、身近な自然ともより豊かに付き合いができたと思います。皆様とともに。




藤原裕貴子 記

### \*会員継続と平成28年度会費納入のお願い\*

 平素当会の活動にご理解、ご支援をいただきありがとうございます。今年度も引き続き、会員継続とご協力をよろしくお願いいたします。

会費は同封の払い込み用紙または最寄りの幹事を介してお納めください。なお、会費納入状況をお知らせする付箋を同封しておりますので、ご確認ください。(2016.4.5.現在)

### \*会員の皆さんへお願い\*

 岩木山に関する情報やこういう事を会員皆と共有したいと言った希望がありましたら、事務局までご一報下さい。会報は会員の皆さんの交流の場です。また、寄稿なども大歓迎です。

### ※編集後記

暖かくなって今年も花の季節がやってきました。桜に桃にりんごの花。りんご農家にとっては忙しい季節の始まりです。さて、昨年金木の陶芸家ご夫妻とお友達になり、ニホンミツバチの飼い方を教わりました。我が家近辺にはりんごの花がふんだんに咲くのでミツバチにとってもいい蜜源となることでしょう。同時にりんごの受粉もしてくれるのでりんご農家としてはいいパートナーとなってくれるに違いありません。ひとつ心配はりんごにかける殺虫剤の影響です。りんごの開花シーズンは殺虫剤は蜂に影響のないものしかけるのですが夏にかけてはどうしても蜂にも影響の出るものを撒かないといけません。そのため巣はりんご畑の中に置くことはできないでしょう。また近年ネオニコチノイド系殺虫剤がミツバチの巣群崩壊を引き起こしているのではないかと疑いがあり我が家ではネオニコチノイド系殺虫剤は使っていないのですが周りの畑ではおそらく使用しているためその影響がどう出るか注意してみる必要があります。とは言え岩木山養蜂の方にも聞いたことがあるのですがそれほど影響はないという話でした。ハチミツが取れたらクマにも注意しないとですね。

小倉慎吾 記

会報「岩木山を考える」第69号(2016年4月27日)発行／岩木山を考える会  
副会長(会長代行) 小堀英憲

〒036-8131青森県弘前市千年4-12-15／電話0172-87-1910

事務局長 竹浪 純／電話070-6952-2614

郵便振込口座番号 02380-0-37914 振込先:岩木山を考える会